

## 暦象オントロジの構築—日本旧暦時代の文献分析支援のために—

相田 満

国文学研究資料館

日本における古典時代文献を分析するための基盤情報ともいうべき、101 万件を超える暦日データベース作成した。本データベースの特徴は、暦日表現を、プログラムによる変換出力ではなく、ユリウス通日をキーとする、実表形式にしていることである。この形式をとることにより、世界各国、さまざまな拡張表が作成可能になる。ここでは、その設計と運用についての基本的考え方と、応用の構想を述べたい。

### Construction of chrono ontologe

--To support the analysis of the document written in the old calendar age in Japan--

AIDA,Mitsuru

Nayional Institue of Japanese Literature

I had made the database on the calendar day that exceeded 1.01 million. It is the one having to say information indispensable to analyze the classics age of Japan document. The feature of this data base is to make not operation by the program but the Julius expert day a key, and to make the calendar day expression a real table form. Making every country in the world and a variety of enhancing tables becomes possible by taking this form. In this report, I want to describe the plan of a basic idea and the application of the design and operation.

### 1.はじめに

人文科学系においては、情報の構造化におけるオントロジを説明するのに際して、「知識概念木」という言い方で説明されることが多いが、その知識とは必ずしも正確な知識を意味しない。そもそも、人間は「認識」をベースに行動する生き物といえ、社会的動物である人間は、集団の無意識によって支配されやすく、価値観も容易に汚染・洗脳されやすい。その意味において、オントロジは「知識」と「認識」の体系双方を表現したものといってもよからう（あるいは「認知」体系とも言い得よう）。

「暦」を例に採り上げてみよう。

日本語の「暦」（こよみ）は、「日（か）読（よみ）[「読み」は数を数えること]」から転じたものともいわれる。

(1)時の流れを1日を単位として、年・月・週などに区切って数えるようにした体系。暦法。をいい、そのための法則や体系のことをさし、たとえば、太陰暦・太陰太陽暦・太陽暦などに分けられる。また、

(2)暦法にしたがって記載された暦表。カレンダー。の類をさした呼称も一般的に使われている<sup>13) 14)</sup>。

「暦」は、本質的には人間が社会生活に便宜をはかるためのツールに過ぎない。よって、本来は絶対的な拘束力・強制力もないはずである。しかし、それが古来より社会統一の基盤的存在として機能し、さまざまな共同幻想を生み出してきたことは、西暦 2000 年紀を節目とするミレニアムの 30 年間の、たとえばローマクラブ第 1 報告書『成長の限界』(1972)における人口増加や環境汚染などの現在の傾向が続けば 100 年以内に地球上の成長は限界に達するとの報告や、五島勉『ノストラダムスの大予言』(祥伝社,1973)などに代表される終末思想観から引き起こされた文化・社会現象を振り返ればわかるだろう。

コンピュータで扱われる規格（現行規格は JIS ; X ; 0301-2002 情報交換のためのデータ要素および交換形式）は、太陽暦であるグレゴリオ暦によるもので、和暦では 1873 年(明治 6)1 月 1 日以降の明治から平成になる。

しかも、コンピュータ世界における暦を扱うプログラムは、草創期の乏しいメモリ資源をやり繰りしていたトラウマを今なお完全には脱却し切れてはいない。

西暦を末尾 2 桁で表現していたシステムやデータが原因で、誤作動を起こす危険を生じた 2000 年問題は、まだ記憶に残る話であろう。それだけでなく、この先にも、日本固有のシステム上の問題として 2025 年問題(昭和 100 年に元号年 3 桁を想定していないシステムが誤作動を起こす危険性)や、C 言語の仕様上の問題で UNIX システムに影響が生じる 2038 年問題など、比較的短期レンジのビジョンしか持ち得なかったコンピュータシステムと、2000 年以上の過去に遡る超長期の暦象表現との相性は、あまり良好ではない。

## 2. 日本旧暦時代文献(旧暦文献)の検索要件

パーソナルコンピュータ暦日情報を扱うアプリケーションは、その歴史は長いものの、慶応時代以前の元号を扱うことを支援する汎用ソフトは皆無に近い。比較的歴史の長いものに MS-DOS 時代以来の歴史がある暦変換ソフト "When" および "suchowan's Home Page" [須賀隆氏<sup>[13 02]</sup>] や、市販ソフトでは陰暦関数を持つデータベースソフト DB-Pro [(株)ソフトヴィジョン<sup>[13 03]</sup>]、その他、若干の変換スクリプト<sup>[13 04]</sup> が公開されているが、広く知られているとはいえない。

前近代、あるいは古典時代などと呼ばれる時代の事象や文物をコンピュータで扱うには、現代とは異なる文脈や発想に基づいて作られたデータを翻訳するための基盤が整えられる必要がある。

たとえば、天体観測や地理学では暦日情報(暦象)や地理情報を、それぞれユリウス通日や緯度経度情報などの形で数値化して表現することで、計算可能なものへと還元することが行われてきたが、こうした共通の指標を、日本の古典時代に適応可能な形で整え、旧暦にて記載された日本の諸文献に適用するには注意が必要である。

すなわち、日本の古典文献に現れる年月日情報は旧暦・元号表記が基本となっているため、暦日対照テーブルを情報検索に適用するには、まず、

- ①元号・改元への配慮
- ②閏月情報の把握と処理
- ③時間幅のある表記への対応策
- ④太陽暦との境界

などのインターフェイスへの配慮が必要だろう。

さらに、旧暦時代の文書が盛んに全文テキスト化され、発信されている近年は、すでに流通しているデータに記載される暦日情報から、知識発見が行えるような情報資源が整うことも期待されるだろう。

- ⑤漢字異体字
- ⑥イレギュラーな表記

稿者は、その対応策として、日本における古典時代文献を分析するための基盤資源とすべく、100 万件を超える暦日データベース作成し、人間文化研究機構にて運用される資源共有化プロジェクトにおける時空間システム構築のための基盤資源に供した。

その基本仕様は下記の通りである。

[開始日]神武天皇 1 年 1 月 1 日 (ユリウス暦：紀元前 660 年 2 月 18 日，ユリウス通日：1480407 日)

[終了日]平成 94 年 10 月 18 日 (グレゴリオ暦：2082 年 10 月 18 日，ユリウス通日：2481786 日)

[総件数]1,001,380 日

[データ定義項目]ユリウス日・和暦年月日・元号・和暦年・元号和暦年・年干支・和暦月・和暦日・日干支・六曜・ユリ・グレ暦年月日・天皇 (北朝)・天皇 (北朝) Topic・南朝和暦年月日・元号 (南朝)・天皇 (南朝)・天皇 (南朝) Topic

データベースの定義項目は、今後も拡張を予定している。

なお、"天皇 (北朝 | 南朝) Topic"項目は、天皇の"踐祚|退位"の別を記したもので、このデータベースは、1 日を単位として記述されたものであるため、"天皇 (北朝 | 南朝)"項目中には、崩御などにともない、天皇の空位が発生した際には空欄となる。また、上皇の扱いは別フィールドを立てて対応する予定である。

このように、本データベースの現状は、その基幹部分を構築したにとどまる。しかし、今後のデータベース形成に際しては、上記の問題についての対応を念頭に入れつつ進める予定である。そこで、本稿においては、対応済み・未対応の部分を含めて暦日データベースを構築するに際しての要件を示すことにより、意見を求め、今後の拡張についての参考としたい。

なお、このデータベースをプログラム処理によって暦日を変換するシステムにしなかったのには、2つの理由がある。まず第1点目は、そのシステムを利用して西暦・旧暦などを調べてわからせるといふ、比較的単純な事柄を「知る自由」はあるものの、そこからさらに発展して、新たな情報を付加したデータベースを作る自由がないということである。もうひとつには、プログラムの動作は環境に依存せざるを得ない状況がある。そのため、いつまでそのプログラムの動作保証がとれるかという問題がつきまとうことと、データ項目の拡張などを進めるとかえって処理が複雑になり、開発が困難になってしまうことがあるためである。また、知的財産権上の問題もクリアにしておきたかったことも付け加えておきたい。

## 2.1.元号・改元への配慮

元号	年	月	日	備考	西暦	元号	年	月	日	備考	西暦
永観	3	4	26	円融	985年5月18日						
永観	3	4	27	改元!	985年5月19日	寛和	1	4	27	花山	985年5月19日
永観	3	4	28		985年5月20日	寛和	1	4	28		985年5月20日
永観	3	4	29		985年5月21日	寛和	1	4	29		985年5月21日
永観	3	4	30		985年5月22日	寛和	1	4	30		985年5月22日

[資料1] 改元に関する留意点

前近代における漢字文化圏の国々の例にもれず、日本でも元号制が採られたが、その元号の立て方は、たとえば、昭和 64 年と平成元年が同じ年であるように前天皇が崩御して新天皇が即位した年を元年とする改元法である立年改元法が採られる。これは、中国およびその冊封国において、前皇帝が崩御して新皇帝が即位してもその年は前皇帝の元号をそのまま使い、次の年になって新しい元号による元年とする改元法(例外：明の秦昌帝[光宗]1582-1620)である踰年改元を採る国々とは決定的に異なる点である。よって、暦日情報の管理には、改元日への留意が不可欠で

ある。さらに、実際の文献には、実際の和暦紀年を超過する年紀が記載するような事例が多出する（たとえば大正 16 年など）。そのため、テーブル上では、実際の紀年を超過にも対応できるような配慮も必要である。

## 2.2. 閏月情報の把握と処理

地下家伝記載形式	元号	年	月	日	太陽暦	ユリウス通日
延宝五年閏十二月十一日 為修理東大寺大仏長官	延宝	5	閏12	11	1678/02/02	2333970
享保九年閏四月二日 叙正六位上(二十歳)	享保	9	閏4	2	1724/05/24	2350882
延享二年閏十二月十六日 兼民部少丞	延享	2	閏12	16	1746/02/06	2358810
慶長二十年閏六月廿九日 兼少内記	慶長	20	閏6	29	1615/08/23	2311161

〔資料 2〕 閏月の扱いについて

閏月の表現は、暦日を数値列で表現しようとする際に、並びの順序が問題となる。それについては、年号表記を ID 化し、年月日のいずれか、あるいは全ての桁に予備桁を設け、フラグを設定する方法が提示されている。

たとえば、東京大学史料編纂所<sup>[註 05]</sup>における大日本史料や近世編年データベースなど編年データベースでは、

慶長 9 年閏 8 月 7 日 (16040085070)

のように、年月日それぞれに予備桁を設け、閏月に 5 を与える方式を採用している。また、近年、安達文夫氏も、人間文化研究機構資源共有化分散型データベースの時間表現において、国立歴史民俗学博物館におけるデータベースの整理に基づいて、yyyymm1dd の形で、閏月に 1 を、そうでない月には 0 を与える形を提案されている<sup>[註 06]</sup>。

## 2.3. 時間幅のある表記への対応策

幅のある時間表記も問題である。特に、日本のように元号が使用されていた国の文献には、次のような表記例も見える（掲出例は DVD 版人物画像データベース中の芳賀矢一(1867-1927)編『日本人名辞典』（思文閣, 1914）を典拠とする履歴データより採った）。

治安万寿の間、藏人頭

明和の頃、本居宣長の門に入る

白河帝の朝、右大臣

正平中、しばしば高師秋を破り、終に之を擒殺す

（注：南朝元号。北朝は貞和・観応・文和）

明治維新後、文部大丞たり

神亀の初、駕に紀伊に従う

こうした問題を解決するためには、多様な暦象表現自体をオントロジ化した知識辞書が必要となろう（かつて筆者は、元号期間を 3 等分して初期・中期・後期に割り当てた情報検索に対応するデータベースを開発した経験がある）。

一方、西暦を使用する情報検索では、幅のある時間表現は文字列一致である程度対応が可能である。

たとえば、正規表現のワイルドカードを使用可能にすれば、"145\*","19\*"などで 10 年・100 年単位の時間幅を持つ情報検索が可能になる。こうした検索手法は、実は、国文学研究資料館で大

型汎用機によるデータベースが運用されていた時代の手法で、貴重なメモリ資源をやり繰り返していたプログラム開発のたまものである。

こうした手法を応用して、文字列による体系だった ID を立てるならば、元号検索においても、ある程度あいまいな時間幅のある情報検索も実現できようが、ただし、国・元号などの階層的体系を事前に整えておく必要がある。

現在、すでに筆者の手元には、

元年一覧

年号一覧

元号期間一覧

の辞書が用意されているが、それに加えて元号の記述に基づく表現パターン辞書を大量コンテンツから帰納的に作成することに取り組んでいる。知識辞書の構築には、このような元号表記の階層化 ID を付与することことも視野に入れている。

## 2.4. 太陽暦との境界

### 2.4.1 旧暦と太陽暦とのズレ

太陰太陽暦に基づく日本の旧暦を、年月日の単位まで考慮に入れて太陽暦に基づく西暦（ユリウス暦とグレゴリオ暦）と比べてみると、それぞれおたがいに、年末と年始にかかって1～2ヶ月程度のずれがある。

ところが、西暦と和暦の差という言い方をした場合、われわれは、4桁の年だけが宛てられた和暦・西暦対照表に基づく換算表で済ませる場合が多い。このことは、学校教育の歴史教科書や歴史年表でもそうである。

たとえば、「冠位十二階（かんいじゅうにかい）」の説明を見ると、

603年(推古11)にさだめられた、日本ではじめての冠位制度。[マイクロソフトエンカルタ]  
(広辞苑・マイペディアも同じ。)

とあるが、実際に聖徳太子が冠位十二階を定めたのは、推古天皇11年12月5日のことである。これをユリウス暦に換算すると、604年1月11日になる。

しかし、一般的には冠位十二階は603年と理解されているため、それが正確な太陽暦にしたがって、604年の検索でなければヒットしないようなインターフェイスだけを用意するわけにはいかないだろう。やはり、年月日までを含めて太陽暦に換算したものと、年のみを西暦に宛てたものとの2通りを用意する必要があるだろう。

### 2.4.2 太陽暦施行日との切り分け

暦日データベースは、ユリウス日<sup>[注 07]</sup>を主キーとし、それに和暦・西暦をあてている。

和暦は、持明院統と北朝を主にして、両統鼎立期の太皇太后統・南朝を別項目として扱うことにより、皇統が近代まで継続させた形にしてある。南朝・天皇・干支などを付帯情報として、別項目に挙げて示している。

ユリウス日を主キーとしているのは、それが連続する数字であるためである。対して和暦・西暦には双方ともユリウス日とは連続してはつながらない。

たとえば、和暦では、日本は1872年(明治5年)12月3日を1873年(明治6年)1月1日とする太陽暦の改暦がなされた節目では、その間の暦は存在しないものになっている。

一方、西暦では、ローマ法王グレゴリオ 13 世の制定したグレゴリオ暦（Gregorian calendar）が、1582 年 10 月 15 日に採用された、その前日は 10 月 4 日で、1582 年 10 月 5 日から 14 日までの 10 日間は存在しないため、そのことを反映させてある。

ただし、グレゴリオ改暦の導入も、ヨーロッパの国により開始時期はバラバラで、たとえばイギリスなどは 1752 年に開始されている。したがって、本データベースで示されるものは、いわば本則にあたるものとなっているのである。今後は、対応する国々の暦を拡張して行けばよいだろう。

グレゴリオ暦が導入されるまで使われていたユリウス暦は、ローマのユリウス＝カエサルが BC46 年頃、ギリシアの天文学者・数学者ソシゲネスに改正させた暦で、1 年を 365 日 6 時間としている。したがって、365 日を 1 年とし、4 年毎（西暦の 4 で割れる年）を閏年として閏日を置いている。

なお、参考までに太陽暦との切り替えに関する留意箇所を抽出して表にして、以下に示した。

ユリウス通日	和暦(北朝)	和暦(南朝)	西暦	
2042461	元慶3年閏10月28日		0879年12月15日	ユリウス暦
2042462	元慶3年閏10月29日		0879年12月16日	
2042463	元慶3年11月1日		0879年12月17日	
2042464	元慶3年11月2日		0879年12月18日	
.....	.....		.....	
2207463	元徳3年8月13日	元弘1年8月13日	1331年9月15日	
2207464	元徳3年8月14日	元弘1年8月14日	1331年9月16日	
2207465	元徳3年8月15日	元弘1年8月15日	1331年9月17日	
.....	.....		.....	
2299158	天正10年9月16日		1582年10月2日	
2299159	天正10年9月17日		1582年10月3日	
2299160	天正10年9月18日		1582年10月4日	
2299161	天正10年9月19日		1582年10月15日	
2299162	天正10年9月20日		1582年10月16日	
.....	.....		.....	
2405157	明治5年11月29日	(明治5年12月3日改暦)	1872年12月29日	グレゴリオ暦
2405158	明治5年12月1日		1872年12月30日	
2405159	明治5年12月2日		1872年12月31日	
2405160	明治6年1月1日	1873年1月1日	日本太陽暦	
2405161	明治6年1月2日	1873年1月2日		
2405162	明治6年1月3日	1873年1月3日		
2405163	明治6年1月4日	1873年1月4日		
2405164	明治6年1月5日	1873年1月5日		
2405165	明治6年1月6日	1873年1月6日		

〔資料4〕 暦法変更の節目

## 2.5.漢字異体字

旧暦が使用される資料の常として、旧字体をはじめとする異体字の問題が発生する。

日本の年号に使用される異体字については、UCS2.0 レベルで示したものが右表である。

この段階では全部で 22 字が問題となるが、一般には、右表中の見出し字に"\*"を付して示した 12 字程度に留意すればよからう。

## 2.6.イレギュラーな表記

日本の古典文献に現れる年月日情報は旧暦・元号表記が基本となっており、幅のある時間表現に対する配慮が必要であるということについては、2.3.でふれた。それとも関連するが、実際の文献には、次に示す「兼家公伝」(『尊卑分脈』<sup>[注 08]</sup>中の記事)のようなものもある。

その記述態度も、

齊*	齊	齊	壽*	壽
明	明	明	觀*	觀
統	統	統	泰	泰
宝*	寶	寶	喜*	喜
和	和	和	徳*	徳
靈*	靈	靈	禄*	禄
龜*	龜	龜	万*	萬
養	養	養	福	富
応*	應	應	乾	乾
曆	曆	曆	国*	國
長	長	長	享	享

〔資料5〕 元号中の異体字

## 羨家公傳

延長七<sub>三</sub>誕生 天慶元十、童殿上 天曆元二廿  
六元服 同二年正七從五下 同三年四十二昇殿  
同四年五廿一侍從 同五年五廿三右兵衛佐 同  
九年二七伊与介 同年十廿二從五上 天曆<sub>三</sub>九  
廿<sub>九</sub>十九十七少納言 天德四正七五下 應和  
二正七從四下 同年五十六兵部大甫 同四年五  
十<sub>二</sub>廿二<sub>七</sub>治京大夫 康保四正<sub>二</sub>從四上 同月  
廿七美乃權介 同年二五春宮亮<sub>三</sub> 同年六廿七  
藏人頭 同年九一春宮權亮<sub>四</sub> 同年十七左中將  
同年十一<sub>一</sub>正四下 安和元十一廿七從三位 同  
二年二七中納言<sub>五</sub> 同年四十一止<sub>六</sub>井中  
將 同年五廿一正三位 天禄元八五右大將 同  
三年正廿四<sub>六</sub>權大納言 同<sub>二</sub>廿九<sub>九</sub>大納言 天延三  
正廿六按察使 貞元二<sub>七</sub>廿七十一遷治部卿  
同日<sub>七</sub>止大將坐事 天元<sub>二</sub>十二任右大臣即從  
二位 同二年三廿八正二位 寛和二六廿三攝政  
賜<sub>八</sub>内舍人近衛<sub>九</sub>于為贈身兵仗 同年七廿辞右大臣  
同月廿二從一位<sub>新</sub> 同年八廿七准三宮賜年

天安二六三(天安2年6月3日[858年7月16日/ユリウス通日2034639日])

あるいは、

安政元後七朔(安政元年閏7月1日[1854年8月24日]/ユリウス通日2398455日)

など、ここまでひどくはなくても、文脈に依存するために、各個の解析に膨大な手間を要するものが多い。

[資料7] 尊卑分脈

これについては、筆者がこれまでデータ構築に関わってきた過程で蓄積された13,000件のパターンファイルがある。これを利用して、記述規則を分析し、その修正結果をコンテンツに反映させるための開発を進めている。

### 3.まとめにかえて—[旧暦文献]のマクロ的解析に必要な基盤データ—

コンピュータの人文学への応用をサポートする共通の指標となるものの内、GIS情報については、GPSなどに代表される衛星から送信される緯度・経度情報に基づく地理情報の高次利用が一般化してからのことで、人文学における応用が本格的な段階を迎えはじめたのは、比較的新しい時期にかかるものといえよう。

それに対して、暦日情報は、基盤的ともいふべき情報資源であるにもかかわらず、いまだ機械可読の形式で公開されることなく、十分な蓄積と流通の方途を得ぬままである状態にあった。このことは、時代や国境を超えたマクロ的解析の実現に大きな障害となっていたが、本データベースが、そのような状況を一新する契機になることを期待したい。

### 4.謝辞

本論は、HGIS研究会および、地域情報学研究会(於：京都大学東南アジア研究所,2006.10.29)における筆者の講演「暦及び地名知識データベースの構築」を下敷きとする。その際、さまざまなお意見をいただいた方々、およびこの構想をもとに作成されたデータベース作成を後押ししてくださった、人間化機構資源共有化プロジェクトにおける時空間プロジェクトに関わった諸先生方、HGISメンバー、特に柴山守、原正一郎、関野樹、桶谷猪久夫、安達文夫氏ほか、多くの諸先生方に記して深謝申し上げる。

[注01]"日本国語大辞典第2版",小学館,2001

岡田芳朗,"暦のからくり",はまの出版,1999ほかを参照した。

[注02]<http://hosi.org/a/> (2007.7.15参照)

[注03]<http://www.softvision.co.jp/> (2007.7.15参照)

[注04] QRSAMP,旧暦計算サンプルスクリプト(高野英明,<http://www.vector.co.jp/soft/cmtdos/personal/se016093.html>) (2007.7.15参照)

[注05]東京大学史料編纂所データベース SHIPS <http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/>

[注 06]安達文夫, 原正一郎, 柴山守, "時間情報を持つ人文科学 DB の統合検索のためのユーザインタフェースの検討", 情報処理学会研究報告, 人文科学とコンピュータ, 2007-CH-74, pp65-72, 2007

[注 06]ユリウス日とは、スカリゲル(J.J.Scaliger)が考案したもので、紀元前 4713 年 1 月 1 日の世界時 12 時(正午)を起点にした通日で表現される。ただし、天文学では、1973 年の国際天文学連合(International Astronomical Union:IAU)において、1858 年 11 月 17 日 0 時(UT)JD=2400000.5 日を新起算日とする準(修正)ユリウス日(Modified Julian Day:MJD)が採択されている。しかし、それでも現在はユリウス日(Julian Day:JD)が使用されることの方が、今なお一般的であることから、それを主キーとして採択した。

[注 08]洞院公定, "尊卑分脈", 国史大系所収, 吉川弘文館

\*参考資料\*

ユリウス日	和暦年月日	元号	和暦年	元号和暦年	年干支	和暦月	和暦日	日干支	六曜	21-29日	和暦年月日	天皇(北朝)	天皇(北朝)Topic	南朝和暦年月日	元号(南朝)	天皇(南朝)	天皇(南朝)Topic
148007	神武天皇1年1月1日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	1	庚辰	先勝	-0660年2月18日	神武天皇						
148008	神武天皇1年1月2日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	2	辛巳	友引	-0660年2月19日	神武天皇						
148009	神武天皇1年1月3日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	3	壬午	先負	-0660年2月20日	神武天皇						
148010	神武天皇1年1月4日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	4	癸未	仏滅	-0660年2月21日	神武天皇						
148011	神武天皇1年1月5日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	5	甲申	大安	-0660年2月22日	神武天皇						
148012	神武天皇1年1月6日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	6	乙酉	赤口	-0660年2月23日	神武天皇						
148013	神武天皇1年1月7日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	7	丙戌	先勝	-0660年2月24日	神武天皇						
148014	神武天皇1年1月8日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	8	丁亥	友引	-0660年2月25日	神武天皇						
148015	神武天皇1年1月9日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	9	戊子	先負	-0660年2月26日	神武天皇						
148016	神武天皇1年1月10日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	10	己丑	仏滅	-0660年2月27日	神武天皇						
148017	神武天皇1年1月11日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	11	庚寅	大安	-0660年2月28日	神武天皇						
148018	神武天皇1年1月12日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	12	辛卯	赤口	-0660年3月1日	神武天皇						
148019	神武天皇1年1月13日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	13	壬辰	先勝	-0660年3月2日	神武天皇						
148020	神武天皇1年1月14日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	14	癸巳	友引	-0660年3月3日	神武天皇						
148021	神武天皇1年1月15日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	15	甲午	先負	-0660年3月4日	神武天皇						
148022	神武天皇1年1月16日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	16	乙未	仏滅	-0660年3月5日	神武天皇						
148023	神武天皇1年1月17日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	17	丙申	大安	-0660年3月6日	神武天皇						
148024	神武天皇1年1月18日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	18	丁酉	赤口	-0660年3月7日	神武天皇						
148025	神武天皇1年1月19日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	19	戊戌	先勝	-0660年3月8日	神武天皇						
148026	神武天皇1年1月20日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	20	己亥	友引	-0660年3月9日	神武天皇						
148027	神武天皇1年1月21日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	21	庚子	先負	-0660年3月10日	神武天皇						
148028	神武天皇1年1月22日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	22	辛丑	仏滅	-0660年3月11日	神武天皇						
148029	神武天皇1年1月23日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	23	壬寅	大安	-0660年3月12日	神武天皇						
148030	神武天皇1年1月24日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	24	癸卯	赤口	-0660年3月13日	神武天皇						
148031	神武天皇1年1月25日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	25	甲辰	先勝	-0660年3月14日	神武天皇						
148032	神武天皇1年1月26日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	26	乙巳	友引	-0660年3月15日	神武天皇						
148033	神武天皇1年1月27日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	27	丙午	先負	-0660年3月16日	神武天皇						
148034	神武天皇1年1月28日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	28	丁未	仏滅	-0660年3月17日	神武天皇						
148035	神武天皇1年1月29日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	29	戊申	大安	-0660年3月18日	神武天皇						
148036	神武天皇1年1月30日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	1	30	己酉	赤口	-0660年3月19日	神武天皇						
148037	神武天皇1年2月1日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	2	1	庚戌	友引	-0660年3月20日	神武天皇						
148038	神武天皇1年2月2日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	2	2	辛亥	先負	-0660年3月21日	神武天皇						
148039	神武天皇1年2月3日	神武天皇	1	神武天皇	辛酉	2	3	壬子	仏滅	-0660年3月22日	神武天皇						

[資料 8] 暦日データベース

連番	元号	元号読み	年代	年代始	年代終	数値年始	数値年終
00001090	ホウキ	ホウキ	07700780	0770	0780	770	780
00001100	天応	テンノウ	07810782	0781	0782	781	782
00001110	天応	テンノウ	07810782	0781	0782	781	782
00001120	延暦	エンリョク	07820806	0782	0806	782	806
00001130	延暦	エンレキ	07820806	0782	0806	782	806
00001140	大同	ダイドウ	08060810	0806	0810	806	810
00001150	大同	ダイドウ	08060810	0806	0810	806	810
00001160	弘仁	コウニン	08100824	0810	0824	810	824
00001170	弘仁	コウジン	08100824	0810	0824	810	824
00001180	天長	テンチョウ	08240834	0824	0834	824	834
00001190	承和	ショウワ	08340848	0834	0848	834	848
00001200	承和	ショウワ	08340848	0834	0848	834	848
00001210	承和	ソウワ	08340848	0834	0848	834	848
00001220	承和	ショウカ	08340848	0834	0848	834	848
00001230	承和	ショウカ	08340848	0834	0848	834	848
00001240	嘉祥	カショウ	08480851	0848	0851	848	851
00001250	嘉祥	キショウ	08480851	0848	0851	848	851
00001260	嘉祥	キショウ	08480851	0848	0851	848	851
00001270	嘉祥	カショウ	08480851	0848	0851	848	851
00001280	仁寿	ニンジュ	08510854	0851	0854	851	854

[資料 9] 年号範囲・異なりヨミテーブル